

容器数の算定書

用途	品目	人員又は床面積 × 排出基準 × 組成割合 × 収集間隔 ÷ 容器容量 = A (Aは、小数点以下二位を四捨五入)	最低必要個数		予備率の加算 B	必要個数 C		
			ポリ容器	コンテナ容器		ポリ容器	コンテナ容器	
住宅	可燃	人員 排出基準 組成割合 収集間隔 容器容量 []人 × [3.64]ℓ × [0.46] × [3]日 ÷ [60]ℓ = ①	個	個	(①+②+③+④) × 1.4 個	個	個	
	不燃	[]人 × [3.64]ℓ × [0.03] × [13]日 ÷ [60]ℓ = ②						
	プラ容器	[]人 × [3.64]ℓ × [0.19] × [6]日 ÷ [60]ℓ = ③						
	ペットボトル	[]人 × [3.64]ℓ × [0.10] × [6]日 ÷ [60]ℓ = ④						
	缶	[]人 × [3.64]ℓ × [0.04] × [6]日 ÷ [50]ℓ = ⑤						
	びん	[]人 × [3.64]ℓ × [0.03] × [6]日 ÷ [50]ℓ = ⑥						
	古紙	[]人 × [3.64]ℓ × [0.15] × [6]日 ÷ [50]ℓ = ⑦						
事務所	可燃	床面積 排出基準 組成割合 収集間隔 容器容量 []㎡ × []kg × [0.75] × []日 ÷ []kg = ⑧	可燃 ⑧+⑩+⑫ 個	個	(⑧~⑬) × 1.4 個	個	個	
	不燃	[]㎡ × []kg × [0.25] × []日 ÷ []kg = ⑨						
	可燃	[]㎡ × []kg × [] × []日 ÷ []kg = ⑩						
	不燃	[]㎡ × []kg × [] × []日 ÷ []kg = ⑪						
	可燃	[]㎡ × []kg × [] × []日 ÷ []kg = ⑫						
	不燃	[]㎡ × []kg × [] × []日 ÷ []kg = ⑬						
注：必要個数 C は、B の小数点以下を切り上げる。			最低必要 個数合計	ポリ 容器	コンテナ 容器	必要個数 合計	ポリ 容器	コンテナ 容器

保管場所面積の算定書

容器保管 必要面積	ポリ容器	容器の直径又は縦〔 〕m × 容器直径又は横〔 〕m × 容器数〔 〕個 ÷ 段数〔 〕段 = m²・・・ア
	コンテナ容器	容器の面積〔0.2〕m ² × 容器数〔 〕個 ÷ 段数〔 〕 = m²・・・・・・・・・・・・・・・・・・イ

1・容器保管場所面積	ポリ容器	ア ≤	m ² ・ウ	ウ+エ _____m ²	2・洗淨排水 設備面積 _____m ²	3・作業上 必要面積 _____m ²
	コンテナ容器	イ ≤	m ² ・エ			

合計面積(1+2+3) _____m ²	粗大ごみ保管場所面積 _____m ²
------------------------------------	-----------------------------------

(算定上の注意)

- 1 計算は、用途別を実施し必要個数を算定する。
- 2 区集の場合収集感覚は、可燃3日、不燃13日(各週)、資源6日とする。区集によらない場合は、実態により記入する。
- 3 容器1個あたりの容量は、原則として次のとおりである。

容器の種類	ポリ容器				コンテナ容器		
	可燃	不燃	プラスチック製 容器包装	ペットボトル	缶	びん	古紙
容量(容積)単位ℓ	60	60	60	60	50	50	50

※ 古紙は、コンテナを使用しないが、面積算定のため、便宜上コンテナによる換算をしている。

- 4 容器数の算定は、家庭系と事業系を区分する。
- 5 予備率は、40%を確保する。
- 6 必要個数が最低必要個数より少ない場合は、最低必要個数と必要個数とする。
- 7 コンテナ容器については、1段につき2個の積み上げを原則とする。
- 8 コンテナ容器の規格は次のとおりとする。 外寸 W530mm × D366mm × H322mm、面積の算定では0.2m²(≒530mm × 366mm)で計算する。
- 9 事業用途に供する部分の床面積の合計が1000平米以上の建築物(事業用大規模建築物)は、上記保管場所とは別に再利用対象物保管場所の設置が必要となります。